評 価 結 果 概 要 表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500030
法人名	株式会社　お茶屋の里
事業所名	グループホーム　下の茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町２－８－２３
自己評価作成日	平成26年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3　チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎日の日課として毎朝ラジオ体操･子女郎狸体操を行い活性化を図っている。
利用者様一人一人が役割や楽しみが持てる様プランに取り入れている。
利用者様の体調管理を徹底し、家族様と連携を図りながら支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●小学校の校庭の木の「イルミネーション点灯式」に利用者2名と職員で出かけた際には、豚汁やおにぎりをごちそうになり、地域の方や子ども達と交流された。利用者は「こんな綺麗なのはうまれて初めて」と、とても感動されたようだ。
●排泄チェック表にて「トイレで排尿･トイレで排便･パットに」を印で示し、時間とともに記入して状況把握に取り組まれている。又、利用者の排泄量等のデーターを取り、個々に応じた尿取りパットを使い分け、全職員が同じように対応できるよう取り組まれている。外部から腹圧を掛けないと排尿できない利用者には、便座で前かがみの姿勢が取れるように背中にクッションを用意したり、排泄時に利用者が笑う事で腹圧がかかるように、職員は楽しい声かけを工夫されている。又、体格の小さい方のために子供用の便座を用意されていた。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）

※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1．ほぼ全ての利用者の
		○	**2．利用者の２/３くらいの**
			3．利用者の１/３くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1．毎日ある
		○	**2．数日に１回程度ある**
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	**2．利用者の２/３くらいが**
			3．利用者の１/３くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	**2．利用者の２/３くらいが**
			3．利用者の１/３くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の２/３くらいが
		○	**3．利用者の１/３くらいが**
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	**1．ほぼ全ての利用者が**
			2．利用者の２/３くらいが
			3．利用者の１/３くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1．ほぼ全ての利用者が
		○	**2．利用者の２/３くらいが**
			3．利用者の１/３くらいが
			4．ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1．ほぼ全ての家族と
		○	**2．家族の２/３くらいと**
			3．家族の１/３くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
		○	**3．たまに**
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	**2．少しずつ増えている**
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1．ほぼ全ての職員が
		○	**2．職員の２/３くらいが**
			3．職員の１/３くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての利用者が
		○	**2．利用者の２/３くらいが**
			3．利用者の１/３くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての家族等が
		○	**2．家族等の２/３くらいが**
			3．家族等の１/３くらいが
			4．ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居（ユニット）ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

（注） 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
（他に「家族」に限定する項目がある）

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）。

●職　員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー

事業所名	グループホーム　下の茶屋
(ユニット名)	モクレン
記入者（管理者）	
氏　名	筒井　房代
評価完了日	平成26　年　8　月　15　日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	**(自己評価)** 毎朝朝礼で唱和している。 フロア内に理念･信条を掲げ常にスタッフ一同が実践に繋がる様努力している。 **(外部評価)** 事業所の理念「笑顔･感謝･交流」のもと、管理者は「利用者が楽しく安心して暮せる雰囲気作りや、その人らしさを失わないことを大切にしていこう」と職員に話しておられる。又、朝礼時には理念を唱和し、新人研修･社員登用研修では、理念について勉強する機会を設けておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	**(自己評価)** 月1回の朝清掃で施設周辺の清掃を行ったり、 西の土居老人会に五輪塔で行っている花見のお誘いを受けたり、夕涼み会等で地域との交流を計っている。 **(外部評価)** 小学校の校庭の木の「イルミネーション点灯式」に利用者2名と職員で出かけた際には、豚汁やおにぎりをごちそうになり、地域の方や子ども達と交流された。利用者は「こんな綺麗なのはうまれて初めて」と、とても感動されたようだ。事業所で毎年開催する「夕涼み会」は、今年度は8月末に予定しており、職員が地域の方100軒程にチラシを配って参加を呼びかけておられる。今回は開設10周年記念ということもあり、そうめん流しを企画しており、利用者も楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	**(自己評価)** 運営推進委員会で地域の方々と情報交換を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	**(自己評価)** 地域の方々や入居者、家族様が参加され、2ヶ月に1度開催しており、入居者の現状や今後の行事報告などをしている。その中で地域の皆さんと認知症についての意見交換などを行っている。 **(外部評価)** 会議は、法人内の3事業所合同で行っておられる。会議には公民館長や自治会長、地域包括支援センターの担当者が参加しており、行事や利用者の現状を報告して、事例検討等を行っておられる。前回の外部評価後、利用者も数名参加できるよう取り組まれている。ご家族には、毎月発行する「下の茶屋便り」にて、事前に会議日時や場所を知らせ、又、来訪時にも参加を呼びかけているが、参加いただくまでにはつながっていないようだ。	管理者は、3事業所合同開催について、系列事業所の報告を聞き、刺激を受け意欲は湧くが、会議は事業所からの活動報告と地域からの行事案内にとどまっていると感じておられる。又、会議に際して、3事業所で事前に話し合うことの必要性も感じておられた。この機会を活かして、会議の目的等も踏まえながら、今後の会議をどのように取り組んでいくかということについて、話し合ってみてはどうだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	**(自己評価)** 2ヶ月に1回の運営推進会議に参加して頂き事業所の実情など伝えながら意見を頂いている。 又、地域密着部会にも参加して頂き勉強会を持っている。 **(外部評価)** 2ヶ月に1回、介護相談員の訪問があり、利用者と居室でお話した内容の報告がある。利用者と、関係する外部者とのトラブル等があれば、地域包括支援センターに相談して解決に向けて支援されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	**(自己評価)** 勉強会を開き皆で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 **(外部評価)** 法人の方針として、ユニット入口には電子ロックを設置している。ロック解除の操作方法に不慣れなご家族は、来訪時に戸惑うような場面もあるようだ。転倒の心配がある利用者の居室には、センサーを設置されている。2階ユニットの利用者の中には、居室の窓から出ようとする方があり、ご家族と相談して窓が開かないよう、ストッパーを取り付けてあった。利用者の自由と安全の両面から、現状の原因等を探り、個々の暮らしのあり方やケアの工夫について考え続けていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	**(自己評価)** スタッフ会等の場で、介護の方法を話し合い、言葉遣いを始めとし、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	**(自己評価)** 管理者及びリーダーは研修等で学ぶ機会もあるが全職員のものとはなりえてない。 機会がある時は後見人様の話を聞かせてもらい、スタッフが理解出来る様にユニット会で資料を配付し説明を行なった。 今後研修などがあれば参加してもらいたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	**(自己評価)** 契約時に重要事項の説明を行い、理解･納得して頂き 契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	**(自己評価)** 月1回、家族様へ利用者の状況報告を行っている。 入り口には意見箱を設置している。 面会時には意見や要望をお聞きしたり話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族様に担当者会議の参加を して頂いている。 **(外部評価)** 毎月の便りと一緒に利用者の近況報告の手紙を同封されている。ご家族の希望に応じて、電子メールで連絡し合うケースもある。ご家族が「尿とりパッド等の使用枚数や頻度」に疑問を持たれた事があり、管理者は使用頻度等を説明したり、1ヶ月間の交換時間や1日の使用枚数、尿量をチェックして報告された。又、来訪時に1日間に使用したパットの濡れ具合等を見ていただく等して、ご家族が納得いくような対応ができるよう努めておられる。「職員の顔と名前がわかりにくい」というご家族からの声があり、現在、管理者は、職員の名前と顔写真を掲示できるよう、準備しているところであった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1回全体会議、ユニット会議を行いスタッフ全員での話し合いを行っている。 行事などの担当を決め全員で協力出来る様計画している。 (外部評価) 前回の外部評価実施後に、毎日、朝礼を実施できるよう目標を立てて取り組まれている。朝礼時は、法人からの伝達事項の報告や『職場の教養』の冊子を読み上げて意見を聞くよう取り組まれており、自分の意見をなかなか表に出せなかった職員も、自分の意見をまとめて発言する事ができるようになり、ユニット会でも職員からの意見が増えてきたようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与の評価･及び昇級の評価時には各自1人1人と面談し、話しあえる場を持っている。 スタッフが向上心をもてる様、研修の参加も心掛けている。 休憩時間も十分取れなかったり時間外になる時もある為 スタッフで話し合い改善出来る様努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外での研修にはなるべく多くの職員が受講できる様にし、ユニット会で発表し共有出来る様努めている。 業務の流れのマニュアルに沿って新しいスタッフが慣れるまでその人に合わせたペースで指導者がつくよう勤務等工夫している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 東予･中予地区でのグループホームの各研修や相互研修で交流を持ち、サービスの質向上につなげている。	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前面接を実施し、ご本人･家族様からの話を十分聴いて努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 新規入居時には家族様とご本人に十分にコンタクトをとるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 常に受診を希望される時には家族様の協力を得ながら 出来る限り送迎等支援できる様努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 各自出来ることは声掛けし協力し合っている。 (テーブル拭き･トレー拭き･掃除･洗濯物干し･畳みなど)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様へ毎月お手紙で現状を報告し、面会に来られた際には近況をご報告している。行事がある場合には家族様に参加を呼びかけ交流の場を持てる様支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも誰でも来てもらえるようにしている。 入所前に交流のあった馴染みの方の訪問もあり 誕生会に参加してもらう等関係が築けている。 (外部評価) 昔からの近所の友人が、定期的に郵便物を持って会いに来てくれており、職員は、ソファー等でゆっくり過ごしてもらえるよう声をかけておられる。ご家族や親せきの方が来られた際には、利用者とゆっくり過ごせるように、居室に椅子を用意する等配慮されている。ご家族に手紙を出せるよう支援した際には、ご家族がたいへん喜ばれ、会いに来てくださる方もあった。法人内事業所での行事に参加して、他事業所の利用者とも交流できるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日、朝、全員でラジオ体操をしたりして、なるべく長くホールで過ごしている。一緒に歌ったり、他のユニットの入居者とも交流出来る様支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院から他施設へ移るケースが多く関係が切れてしまいがちである。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握　一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人と会話する事により意思の確認に取り組んでいる。 (外部評価) 職員は、日々の会話の中から利用者の思いを探り、自分の意思を伝える事が困難な利用者には、仕草や表情、様子から思いや意向を読み取り、職員間で情報を共有されている。事業所独自の「施設サービス計画書」には、利用者がどのような生活を望んでいるのか、願いや希望等を記入する欄を設けており、個々の願いや希望を踏まえた支援につなげていきやすくなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご本人や家族様より過去の暮らし生活状況など聴いたり担当ケアマネなどから情報を得る様にしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日頃の見守り等から状態の変化など把握し、又変化が見られる場合には他の職員への連絡相談を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の現状や思い、課題などを他のスタッフそれぞれが感じていることをあらいだし、その中から共通点をみつけ介護計作成に反映させている。 又担当者がアセスメント、モニタリングを書き出してサービス担当者会議で協議している。 (外部評価) 事前に、ご家族や利用者の希望をお聞きし、担当職員や計画作成者等で検討されている。計画内容には利用者の「不安や苦痛に感じる事」や「介助に対する願い」を採り入れておられる。退院後、歩行が不安定になった利用者には、「トイレで排泄したい」との思いや、ご家族の「外泊時にもトイレ誘導ができるように、トイレでの排泄を続けてほしい」との希望があり、計画に採り入れて支援されていた。外泊してご家族は「自宅でも問題なくトイレで排泄ができました」と喜ばれたようだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 連絡シートにて職員間への情報共有にしている。毎月個別のモニタリングシートで日々、プランが実践できているかどうか勤務者が記録し、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) お誕生会の外食や外食の支援などの際に家族を招待したり、家族が来られない時は、スタッフがボランティアで支援に入ったりすることもある。利用者様のニーズによりお買い物支援を行いご本人にお金を支払ってもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 花見、地域の自治会、老人会、夕涼み会等協力をいただきながら招き合って交流を図り楽しんでいる。近所のお寺の花祭り等に参加し、昔ながらの風習を大切にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に受診先の確認と希望を聞いている。往診の際本人や家族様の希望、ご本人の状態をDrに伝える支援をしている。 外部の病院を受診される際は家族さんの希望でスタッフが同行するときもある。また家族様が来られない時にはスタッフが代行で受診支援を行っている。 (外部評価) 協力医の往診が週2回、訪問歯科は必要時に来てくれるようになっている。受診時は、利用者の状態やご家族の都合に合わせ、ご家族と協力し合って支援されている。精神的に不安定で攻撃的な行動が見られる利用者のご家族は、他の方に迷惑をかけては申し訳ないという思いから、強い薬を希望されたが、管理者は薬で行動を抑え付けてしまっては利用者本来の「本人らしさ」がなくなってしまう事を説明された。職員やご家族と何度も話し合い、医師とも相談して服薬は非常時のみとし、職員同士で利用者ご本人の精神状態等も伝え合いながらケアされている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職は在職していないがデイサービスに所属の看護士に協力してもらっている。 緊急時にはDrに相談し受診支援を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は担当Dr.看護師、ソーシャルワーカーとの面談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 十分に出来ていない。 (外部評価) 利用者が「口から食べられなくなったり、医療行為が必要になった場合には、対応が困難である」事をご家族に説明されている。協力医療機関には入院設備がないことや体制面でも、看取りは現状では困難であると考えておられる。現在、看取りを希望するご家族はいないが、今後のことについて「どうしたらいいか」と聞かれることがあり、管理者は特養や療養施設を紹介している。	看取り支援については、条件もあって支援に難しさがあるようだが、管理者は「将来的には検討していきたい」と話しておられた。今後、利用者やご家族の希望に沿った支援を実践できるように、法人や医師とも話し合いながら利用者主体の体制づくりをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応方法については、マニュアルに沿って対応している。研修に参加しユニット内で共有しながら取り組む努力をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行っている。 (外部評価) 年2回、消防署の協力を得て火災想定で訓練を実施されている。夜間想定での訓練時、一人で9名の利用者を避難させるには時間がかかる事を痛感した職員は、夜勤勤務前には、頭の中で避難誘導をシミュレーションされるようだ。事業所では何度か停電を経験したことで、トイレのドアの上に非常用電気を設置されていた。又、夜勤時には、各ユニットの職員同士が携帯電話でやり取りすることになっている。事業所では、非常時のためにパン、米、水等の備蓄やカセットコンロを用意されている。	事業所のすぐ近くにある法人施設は、平成17年に水害で腰の位置まで浸水した事もあり、事業所は3階建ての2、3階に位置することから、災害時の避難場所となっている。今後は、災害のいろいろな場面を想定して、近隣にある法人施設全体で訓練を実施してみてはどうだろうか。さらに、ご家族や地域との協力体制作りもすすめていかれてほしい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人らしい暮らしが出来ているか、利用者本位の支援が出来ているかを常に考えながら支援している。役割を持ってもらいながら何気ない支援の中、尊厳･誇り･プライバシーを保つ言葉かけや、居場所環境作りの見直しをしている。 (外部評価) 管理者や職員は、日々、利用者に対して慣れ慣れしい言葉遣いになっていないか、声が大きくなりすぎていないか、気を付けながら対応されている。耳の聞こえにくい方には、メモを渡したり、文字やジェスチャーを採り入れて正しく伝えられるよう工夫されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 散髪の訴えがあったり買い物支援等、要望に応じて出来る限りの支援を行っている。 スタッフの一方的な支援にならない様、声掛け対応に心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間、食事時間などは、本人の生活リズムに合わせて行っている。食事以外は各自の部屋で過ごしたりフロアでテレビを観たりして過ごしている。 趣味や買い物等出来る事の支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分で選べる人には声掛けし選んでもらっている。 自分で出来ずらい人には、その人が好んでいる服を着てもらえる様支援している。又外出時にはお出かけ用の服を着て貰う等少しでもおしゃれ出来るように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) スタッフと利用者様が月に1度手作り料理を作るようにしている。野菜の皮むきやカットなどを手伝ってもらう様にしている。食事の前後テーブル拭きや食後のトレー拭き等手伝ってもらっている。 (外部評価) 食事は、法人全体で一括して調理したものが届き、事業所でご飯を炊いて、職員が盛り付けるようになっている。利用者は、テーブル拭きや皿洗いをされる。好き嫌いが多い利用者には、事業所で別の物を用意する場合もあるが、中には、ご家族と相談した結果、毎月献立表を送って、ご本人が食べられないメニューがあれば、ご家族がおかず等を持って来ることになったケースもある。月1回程度の「手作り食の日」には、お好み焼きや筑前煮等を利用者と一緒に作っておられる。そうめん流しを楽しんだ際には、利用者は「日本一のそうめん流しじゃ」と喜ばれたようだ。調査訪問時にも、利用者が「この前のそうめん流しは良かった。やっぱり日本一いや世界一か」と話してくださった。自分で食べられない利用者の方には「これは○○ですよ」と料理名や食材を知らせて口に運び、職員が「美味しいですか」と問うと、うなずいておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に毎日の水分量と食事量は記録し、把握出来ている。利用者様の食事形態に合わせて食べやすい 大きさに切ったりペースト状にしたりして支援している。 咽せる方にはトロミや、イナアガーを使用し安全に摂取出来る様心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは洗口液を使用し声掛けと一部介助で行っている。、夜は薬剤（ポリデント）を使用し義歯の洗浄を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	**(自己評価)** 排泄チェック表により1人1人のリズムを把握し、時間を見計らいトイレ誘導を行っている。 **(外部評価)** 排泄チェック表にて「トイレで排尿・トイレで排便・パットに」を印で示し、時間とともに記入して状況把握に取り組まれている。又、利用者の排泄量等のデーターを取り、個々に応じた尿取りパットを使い分け、全職員が同じように対応できるよう取り組まれている。外部から腹圧をかけないと排尿できない利用者には、便座で前かがみの姿勢が取れるように背中にクッションを用意したり、排泄時に利用者が笑う事で腹圧がかかるように、職員は楽しい声かけを工夫されている。又、体格の小さい方のために子供用の便座を用意されていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	**(自己評価)** 個人の便周期などに注意し薬の服用を行ったり、水分管理や毎日のラジオ体操・子女路狸体操も実施している。 自ら廊下歩行される方もいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	**(自己評価)** 週2・3回の入浴を実施し、失禁後の入浴も行っている。起床時、失禁後には清拭で対応している。 個々に応じて湯舟につかってもらったり、シャワー浴・足湯等の支援も行っている。 **(外部評価)** 基本的には、週2～3回、午後に入浴支援されている。浴槽をまたぐ事ができる方は湯船に浸かれるよう支援し、困難な方は利用者やご家族に確認して、シャワー浴と足浴にて対応し、冬場は、職員2名が入浴介助して湯船に浸かれるよう支援されている。入浴剤やゆず湯を楽しまれる事もある。乾燥肌の方は、ベビー用ソープを使い、顔にお湯がかかるのが嫌な方にはシャンプーハットを使って支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	**(自己評価)** 1人1人の体調と状況に応じて食後等、休息の支援を行っている。居室に戻り休まれたり、ホールでゆったりとソファに座られたり自由な過ごしの支援をしている。夜間は2時間毎の見回りで安否確認をし良眠支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎回、服薬確認を行ない薬に変更があった時にはスタッフ間の申し送りと、数日間個別の記録を取り小まめな情報の共有をし対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様の1人1人の身体能力に合わせ洗濯物、お盆拭き等の家事作業の支援を行っている。 レクレーションに心掛け気分転換に出掛けたり、ぬりえ等も取り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出支援に努めている。また、ホーム内ではビーチバレーや唄、利用者様の誕生会、季節季節のイベントの計画を立て皆で楽しく行事に参加出来る様支援している。 (外部評価) 季節ごとのお花を見にご家族を誘って一緒に外出したり、ご本人の「服を買いに行きたい」「アイスが欲しい」等の希望に沿って、買いものに出掛けられるよう支援されている。又、近くの遊歩道を散歩する事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 必要に応じ一緒に買い物に出掛けている。 お一人の利用者様は事務所で財布を預かり買い物時にはご自分で選び支払いされている。 その他の利用者様はお金の管理が難しく必需品の購入はスタッフが代行する事もあり家族様の了解を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 届いた手紙や葉書きなどは本人にお渡ししている。 必要な場合は電話をかける等行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎朝全体の清掃、整理に努め季節の花を飾ったりしている。玄関は出来る限りの季節の置物などを取り入れる様にしている。個人別の室温を管理している。 (外部評価) 事業所は3階建ての2・3階部分に位置している。居間は南、西に窓があり、自然光がたっぷり入り明るい。廊下、居間、浴室の脱衣場、トイレは床暖房の設備があり、冬場は足元があたたかい。廊下にはタペストリーや行事時の利用者の様子の写真が飾られてあった。調査訪問時には、洗濯物の乾き具合を見に南側にあるベランダに出る利用者もみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 座席は食事の時はご自分の席に座ってもらいそれ以外では自由に座ってもらえるよう特に決めておらず、テレビを見たり、レクレーションをする時などその都度移動してもらったりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使用していた家具を置いたり、本人も整理、取り出しやすいように設置し衣替えのときは利用者と一緒に行ったりしている。 (外部評価) 居室には、ご自宅から持って来られたタンスやテレビ等が置かれていた。昼食後には、自室のテレビで高校野球を観戦する方や、他利用者の居室を訪ねておしゃべりする方もおられた。ご家族からの絵手紙や、ひ孫と一緒に撮った写真を飾っている方もある。ご家族の来訪時に使用できるように、事業所で折り畳み椅子を用意しているところもあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 毎月カレンダーはご自分でぬり絵を行い居室に飾っている。夜間の行動には注意し、センサーを利用しながら安全な生活を送れる様な介助に努めている。	